

# 川西の子どもたちは、がんばっています!

## ～平成21年度全国学力・学習状況調査結果～

「全国学力・学習状況調査」が実施され、本年度で、3回目の参加となります。国語と算数・数学という一部の教科でしたが、全国的な状況との関係において、本市の教育施策の成果と課題、学校における指導の実際について、評価・検証する機会の一つとしてとらえ、本市も参加しました。その概要は、以下のとおりです。

### 1 調査事項等

○ 調査日 平成21年4月21日(火)

○ 調査事項

#### 《教科に関する調査》

- ・ 小学校6年生：国語・算数「A：主として知識に関する問題」と「B：主として活用に関する問題」
- ・ 中学校3年生：国語・数学「A：主として知識に関する問題」と「B：主として活用に関する問題」

#### 《質問紙調査》

- ・ 児童生徒に対する調査《学習意欲、学習方法、生活の諸側面等に関する調査等》
- ・ 学校に対する調査《指導方法、人的・物的な教育条件等》

○ 実施状況

	学校数	国語		算数・数学		児童生徒 質問紙
		A知識	B活用	A知識	B活用	
小学校6年生	16校	1546人	1547人	1545人	1546人	1547人
中学校3年生	7校	1219人	1220人	1220人	1221人	1222人

### 2 調査結果の概要

- 本市児童生徒の学力の定着状況は、全国の公立学校の状況と比較し、小学校・中学校の国語、算数・数学いずれもA問題(知識)B問題(活用)ともに同程度(※)であり、全国平均、兵庫県の状況と同様に、活用力に課題があります。
- 小学校・中学校の国語、算数・数学いずれも、B問題(活用)の正答率の高い児童生徒は、A問題(知識)の正答率も高いという傾向があります。

※分析の際の基準の考え方

○本市児童生徒と全国の状況との平均正答率の比較は、次を基準としています。

+5. 1%以上(上回る) ±5. 0%(同程度) -5. 1%以下(下回る)

# I 学力の定着状況

## 小学校 国語

\* 国語A・国語Bともに、平均正答率は全国平均（A：69.9%、B：50.5%）と同程度であり、領域別の状況についても全国平均と同様の傾向です。

国語A

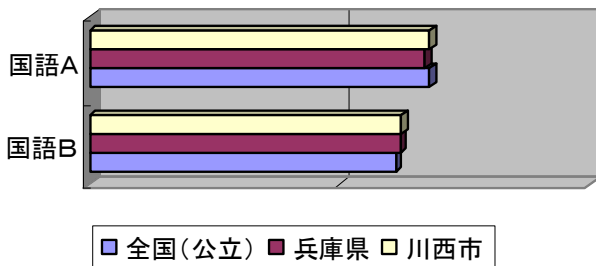


国語B



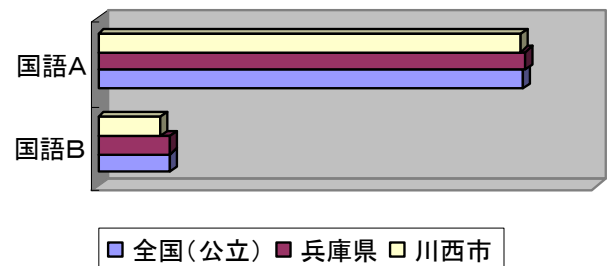
### 領域別の状況

話すこと・聞くこと



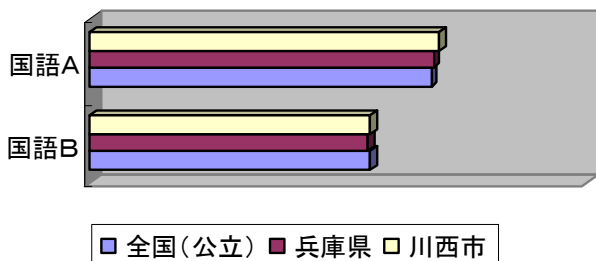
- ◇ (A) 司会の役割や働きをとらえて話し合いを計画的に進めることは、多くの児童が理解しています。
- ◆ (B) 自分の立場や意図を明確にして話し合うこと、話の組立てを工夫しながら図を使って説明することに課題があります。

書くこと



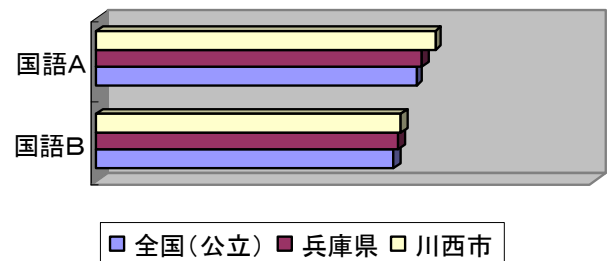
- ◇ (A) 文章の内容に合わせて小見出しをとらえることには、多くの児童が理解しています。
- ◆ (B) 報告文に必要な事柄を整理したり、事象や意見などを関係付けながら書いたりすることに課題があります。

読むこと



- ◇ (A) 文学的な文章の表現の工夫をとらえること、図鑑を読んで必要な内容をとらえることは、多くの児童が理解しています。
- ◆ (B) 筆者の表現の工夫や考えをとらえることに課題があります。

言語事項



- ◇ (A) 今回出題した漢字の読みと書きについては、多くの児童が理解しています。
- ◆ (A) ローマ字を正しく読んだり書いたりすることに課題があります。

## 課題がみられた内容

### 【話すこと・聞くこと】

- 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら話す。

#### 《こんなことに気をつけて》

- ・自分の立場を明確にし、事実と感想、意見などを区別しながら説明したり、報告したりしましょう。
- ・説明や報告をするときには、図表やグラフ、映像や実物などの資料を提示しながら事柄の相互の関係を整理して話しましょう。



### 【書くこと】

- 目的や意図に応じて、書く事柄を収集・整理し、事実と感想、意見などを区別しながら書く。

- ・報告文などを記述する前段階においては、必要な事柄についてメモを使って収集したり、構成表を用いて整理したりしましょう。
- ・調査報告文などを記述するときは、調べる目的や理由、調べる内容や結果、まとめなどを明確にしましょう。



### 【読むこと】

- 目的や意図に応じて、表現の仕方に注意しながら文章の内容を的確に押さえて読んだり、自分の考えを明確にして読んだりする。

- ・読んだ本や文章を説明したり紹介したりするなどの目的をもち、登場人物の行動や性格、場面についての描写など表現の工夫に着目して想像を豊かにしながら読みましょう。



### 【言語事項】

- ローマ字を繰り返し読んだり、書いたりする。  
用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを整えて書く。

- ・コンピュータを使った学習などと関係付けて、ローマ字を繰り返し読んだり、書いたりする機会を増やしましょう。
- ・用紙全体との関係から、大きさ、行間、字間などを整え、文字を丁寧に書くようにしましょう。



# I 学力の定着状況

## 小学校 算数

\*算数A・算数Bともに、平均正答率は全国平均（A：78.7%、B：54.8%）と同程度であり、領域別の状況についても全国平均と同様の傾向です。

算数A

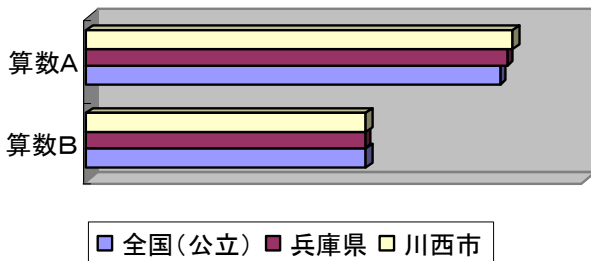


算数B



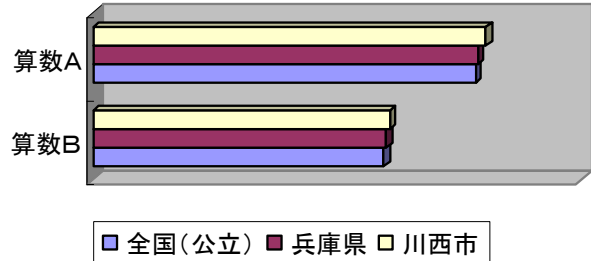
### 領域別の状況

数と計算



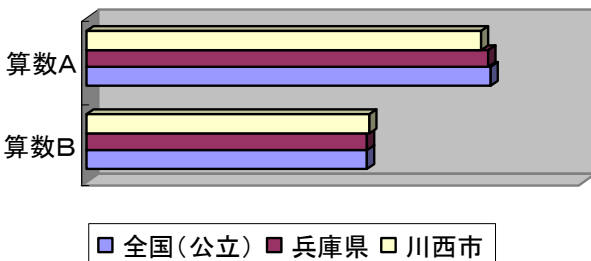
- ◇ (A) 整数、小数、分数の四則計算、数を四捨五入して概数で表わすことは、多くの児童が理解しています。
- ◆ (B) 数直線から数を読み取ることに課題があります。

量と測定



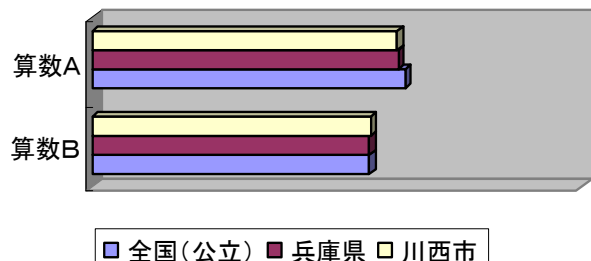
- ◇ (A) 長さについての感覚を身につけること、角の大きさを測定する場面で、分度器の目盛りを読むことは、多くの児童が理解しています。
- ◆ (B) 与えられた条件に合う時刻を、筋道を立てて考え、時刻表から選択することに課題があります。

図形



- ◇ (A) 平行四辺形の向かい合う辺の長さが等しいという性質は、多くの児童が理解しています。

数量関係



- ◆ (A B) 百分率を求めることや、基準量と比較量を基にして、割合の大小を判断し、その理由を記述することに課題があります。

## 課題がみられた内容

### 【数と計算】

- 一目盛りの大きさに着目して数直線から数を読み取る。

#### 《こんなことに気をつけて》

- ・ 一目盛りの大きさが様々な数直線から数を読み取ったり、一目盛りの大きさを自由に決めて数を読み取ったりしましょう。

### 【量と測定】

- 三角形の底辺や高さを理解し、面積を求めるために必要な長さを測定する。
- 問題場面の情報を整理し、必要な条件を考慮して、筋道を立てて考える。

- ・ 辺の長さを示していない図形から、面積を求めるためにどの部分の長さが必要かを考えたり、その長さを測定したりしましょう。
- ・ 問題場面の情報を整理して図に表したり、解決に必要な条件を書き出したりしましょう。答えを求めた後に条件と照らし合わせたり、条件に合うものが他にないかを確認したりすることも大切です。



### 【図形】

- 他者の解決方法を基に、見方を変えて新しい解決方法を考え説明する。
- 身の回りの事象を観察して図形を見だし、問題解決に必要な情報を選択する。

- ・ いろいろな考え方や解決方法を発表し合う場で、他者の発言や記述の内容を基に考え方を理解したり、自分の考え方を分かりやすく説明したりできるようにしましょう。
- ・ 学習した図形を身の回りから見いだしたり、見いだした図形のどの情報を用いれば問題を解決できるかを考えたりしましょう。

### 【数量関係】

- 計算の順序についてのきまりを基にして計算の過程を説明する。

- ・ 乗法・除法を加法・減法より先に計算するという計算の順序についてのきまりを、確実に理解できるようにしましょう。

# I 学力の定着状況

## 中学校 国語

\* 国語A・国語Bともに、平均正答率は全国平均（A：77.0%、B：74.5%）と同程度であり、領域別の状況についても全国平均と同様の傾向です。

国語A

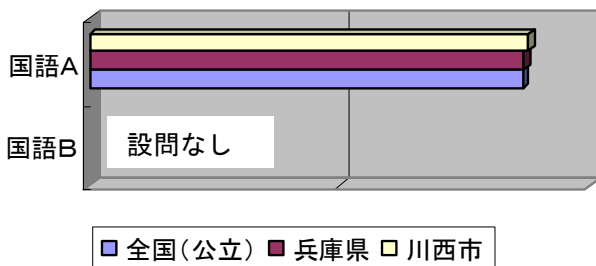


国語B



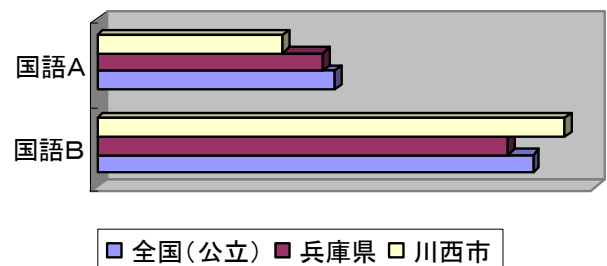
### 領域別の状況

話すこと・聞くこと



◇ (A) 効果的なスピーチをするために話の展開の仕方を工夫すること、話の内容から必要な情報を的確に聞き取ることは、多くの生徒が理解しています。

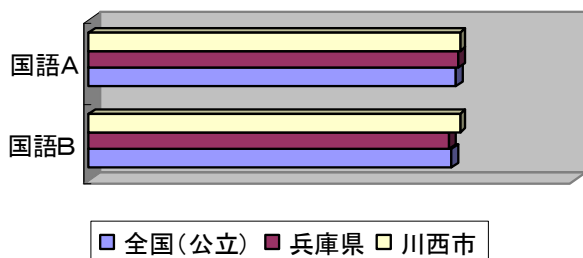
書くこと



◇ (B) 詩の内容や構成、表現上の特徴などを踏まえて写真を選び、詩と関連付けて自分の考えを書くことは、多くの生徒が理解しています。

◆ (A) 主語（主部）に対応させて述語（述部）を適切に書くことに課題があります。

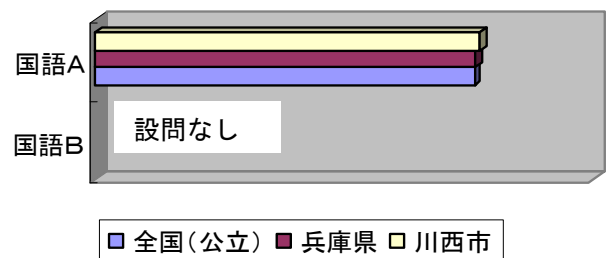
読むこと



◇ (A) 文学的な文章の内容を展開に即してとらえること、目次の特徴や役割を理解することは、多くの生徒が理解しています。

◆ (A) 短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむことに課題があります。

言語事項



◇ (A) 文脈に即して漢字を正しく読むこと、辞書に書かれている情報を適切に読み取ることは、多くの生徒が理解しています。

◆ (A) 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことについては、一部に課題があります。

## 課題がみられた内容

### 【話すこと・聞くこと】

- 自分の考えを的確に話したり、情報を的確に聞き取ったりする。

#### 《こんなことに気をつけて》

- ・ 自分の考えを的確に話す力を身に付けるために、聞き手の反応を考えた話し方や、聞き手の理解を助けるような話の展開の仕方を考えましょう。また、情報を的確に聞き取る力を身に付けるために、情報に不足がないかを判断したり、必要に応じて質問したりしましょう。

### 【書くこと】

- 書いた文章を推敲する態度や方法を身につける。

- ・ 読みやすく分かりやすい文章を書く力を身に付けるために、書いた文章を読み返す機会を多く持ち、推敲することが習慣になるようにしましょう。具体的には、書き終えた文章のみでなく、書いている途中の文章をペアやグループで読み合い、検討することも重要です。その際、適切な助言ができるように、推敲の観点を具体的にもつことが大切です。

※推敲：詩や文章をよくしようと何度も考え、作り直して、苦心すること。

### 【読むこと】

- 文章と補助資料とのかかわりをとらえて内容を読み取る。

- ・ 書かれている内容をより深く理解するために、文章と図表などの補助資料との関連を考えましょう。

### 【言語事項】

- 言葉への関心を高め、言語感覚を豊かにする。

- ・ 言葉への関心を高め、言語感覚を豊かにするために、国語辞典や漢和辞典を使って、なじみの薄い語句や使用頻度の低いと思われる漢字などを積極的に調べる機会を意図的に設けましょう。その上で、調べたことを話す・聞く・書く・読むという言語活動に生かしていくようにすると、なおいいでしょう。



# I 学力の定着状況

## 中学校 数学

\* 数学A・数学Bともに、平均正答率は全国平均（A：62.7%、B：56.9%）と同程度であり、領域別の状況についても全国平均と同様の傾向です。

数学A

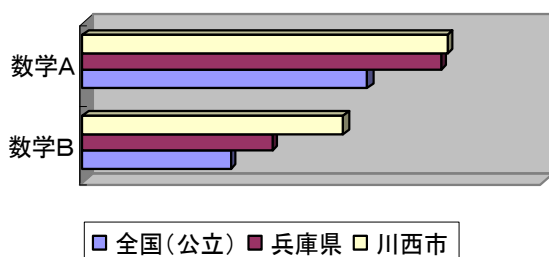


数学B



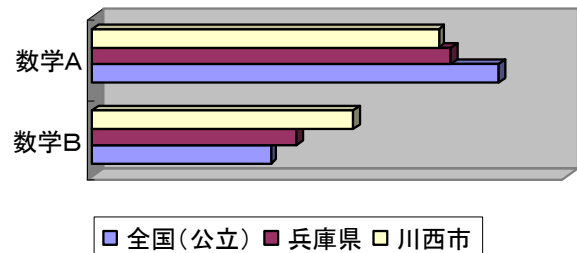
### 領域別の状況

数と式



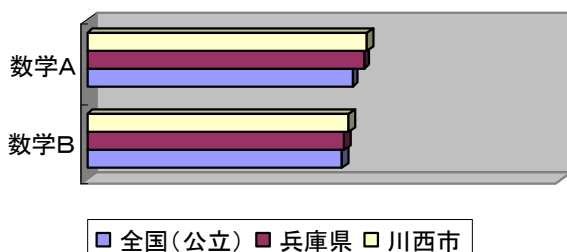
- ◇ (A) 比の意味、指数の計算の仕方、 $( )$ を含む正の数と負の数の計算、単項式どうしの乗法の計算は、多くの生徒ができています。
- ◆ (B) 予想された事柄が一般的に成り立つ理由を説明することに課題があります。

図形



- ◇ (A) 2つの三角形が合同であること判断する際に必要な辺や角の相等関係を指摘することは、多くの生徒ができています。
- ◆ (A) 帰納的な方法による説明と演繹的な推論による証明の違いに着目して、証明の意義を理解することに課題があります。

数量関係



- ◇ (A) 座標平面上に点の位置を示すことは、多くの生徒ができています。
- ◇ (B) 与えられた情報を分類整理することは、多くの生徒ができています。
- ◆ (A) 2つの数量の関係が反比例になることへの理解や反比例の関係を式に表わすことに課題があります。
- ◆ (B) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明することに課題があります。



## 課題がみられた内容

### 【数と式】

- 方程式をつくるために、着目する数量を見いだす。
- 理由を説明するために何を示せばよいかを見通す。



### 《こんなことに気をつけて》

- ・ ある数量に着目して、等しい関係を意識して方程式をつくることを理解したり、方程式がどのような数量に着目してつくられているのかを振り返ったりしましょう。
- ・ 事柄が成り立つ理由を説明するために、具体的な例を調べることを通して説明の見通しをもち、結論を導くために必要な根拠が何かを明らかにして、口述したり記述したりしましょう。

### 【図形】

- 帰納と演繹の違いに着目して、証明の意義を理解する。
- 図形の特徴を的確にとらえ、数学的な表現を用いて説明する。

- ・ 帰納的な方法の役割と限界を理解し、演繹的な推論による証明により命題が例外なしに成り立つことを明らかにできることの理解を深めましょう。
- ・ 日常的な事象を数学化する過程において、事象の観察を通して把握した事柄を記述したり、発表したりしていきましょう。

※帰納的推論とは、個々の特殊な事例に基づいて、一般的な結論を導く推論である。すなわち、特殊から一般への推論の方法である。また、いくつかの真の命題を根拠にして、他の命題が真である事を論理的に導き出すことを演繹的推論という。根拠とした命題を前提または仮定といい、導き出した命題を終結または結論という。

※数学化とは、蓄積した経験を数学的方法により組織する活動のこと。

### 【数量関係】

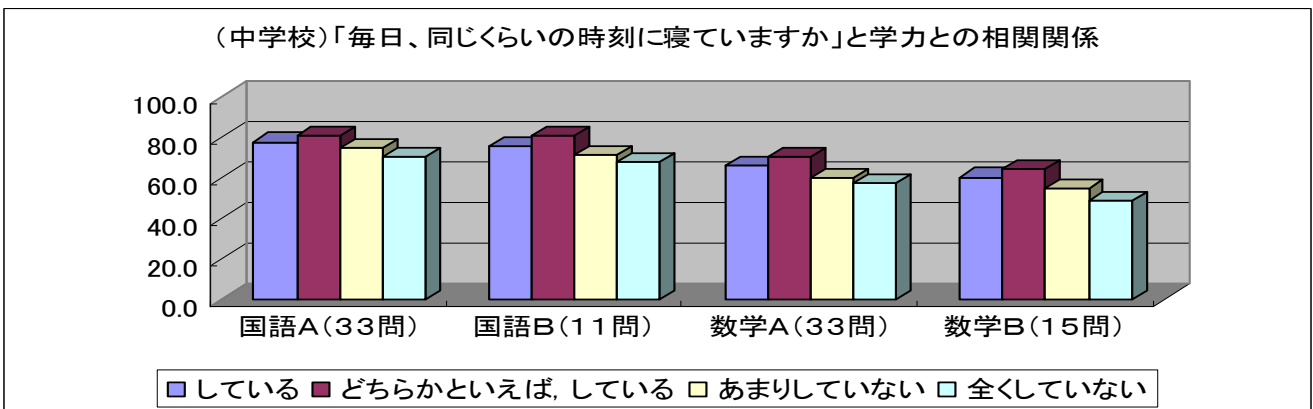
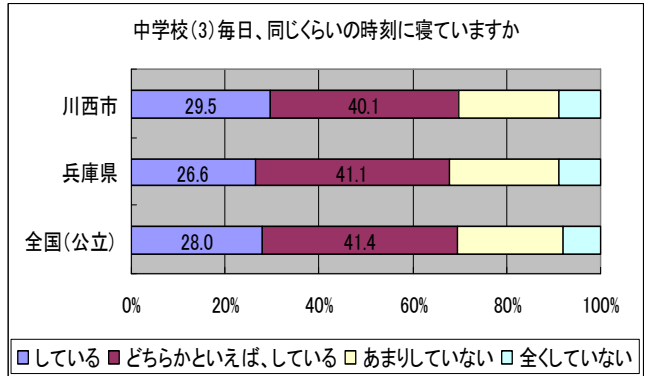
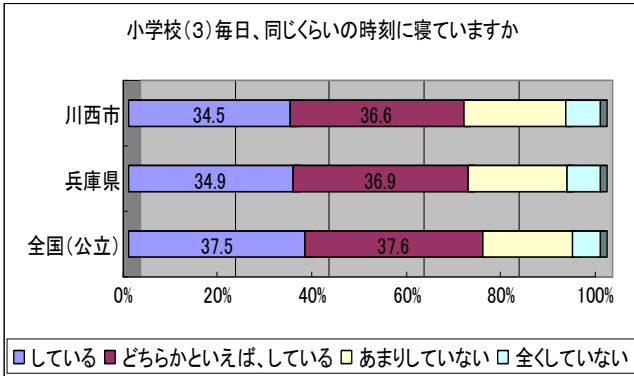
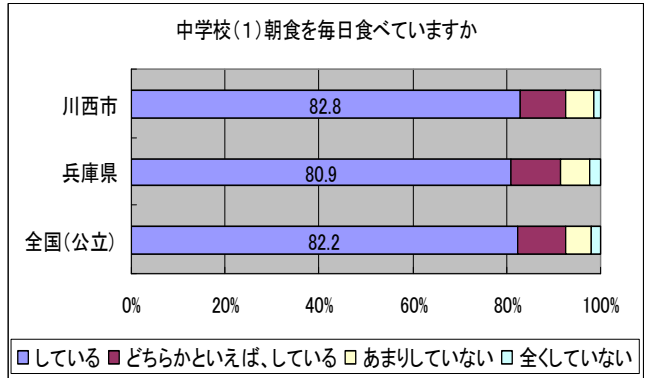
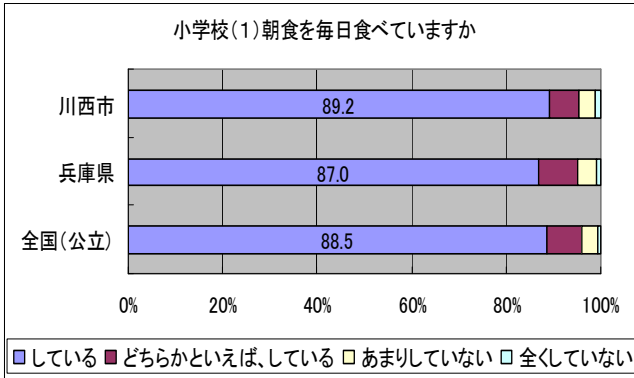
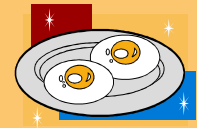
- 反比例の関係について表、式、グラフを関連付けて理解する。
- 二元一次方程式の解の集合とグラフの関係について理解する。

- ・ 具体的な事象における2つの数量の関係を表に表し、表から関数の特徴を見いだして式をつくるなど、表、式、グラフを関連付けて考えましょう。
- ・ 二元一次方程式の解の集合が直線になることの理解を深めたり、方程式による表現とそのグラフによる表現を相互に関連付けてとらえましょう。

## Ⅱ 学力と児童生徒の学習や生活に対する意識

### 1 生活習慣と学力

朝ごはんを食べたり、規則正しい生活をしたりしている  
児童生徒は、正答率が高い傾向が見られます。

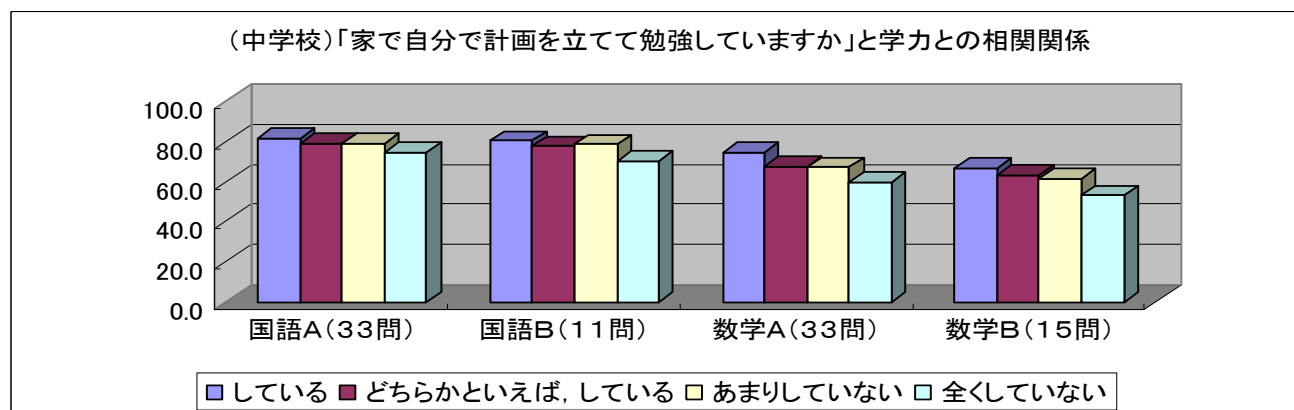
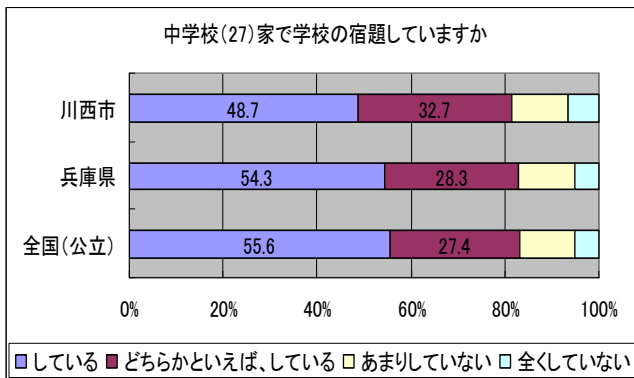
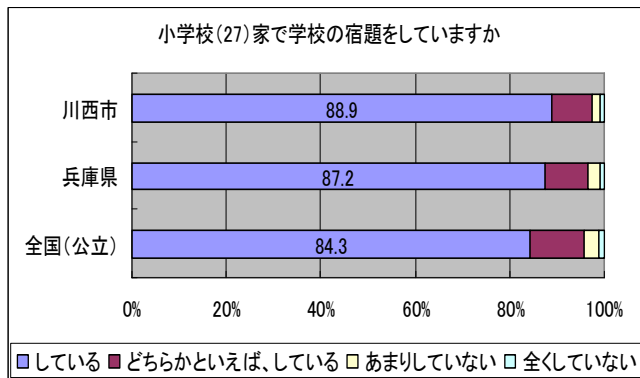
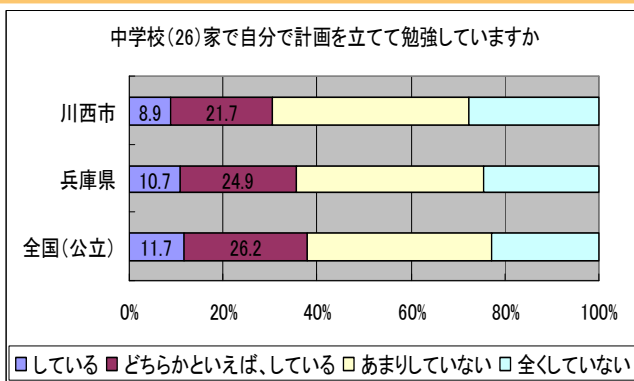
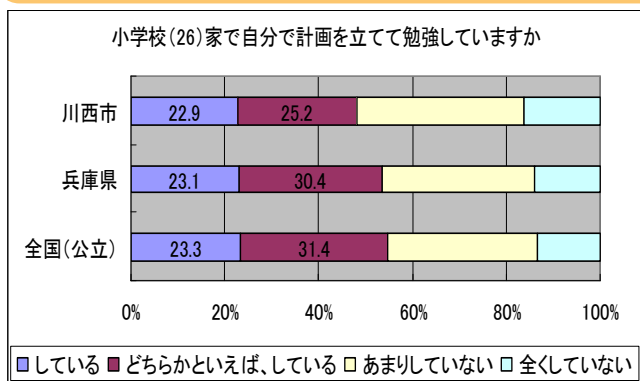


他にも、以下のような児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られます。

- \* 学校に持っていくものを前日か、その日の朝に確かめている。
- \* 毎日、同じくらいの時刻に起きている。
- \* テレビゲームをしたり、テレビやビデオ・DVDを観たり聞いたりする時間が短い。

## 2 学習習慣と学力

家に帰ってから、自分で計画を立てて勉強したり、学校の宿題、予習・復習をしたりしている児童生徒は、正答率が高い傾向が見られます。



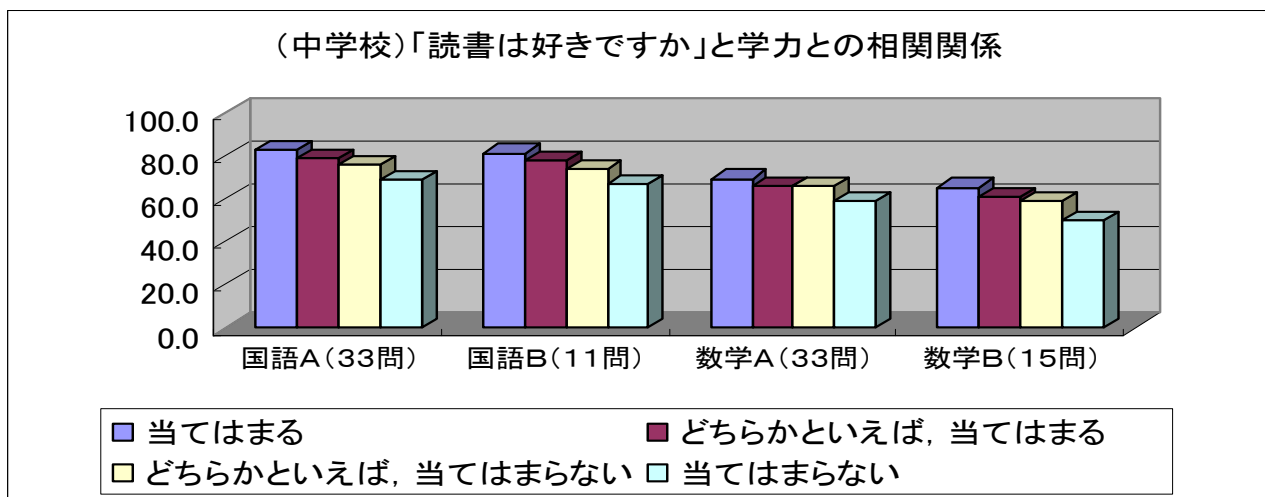
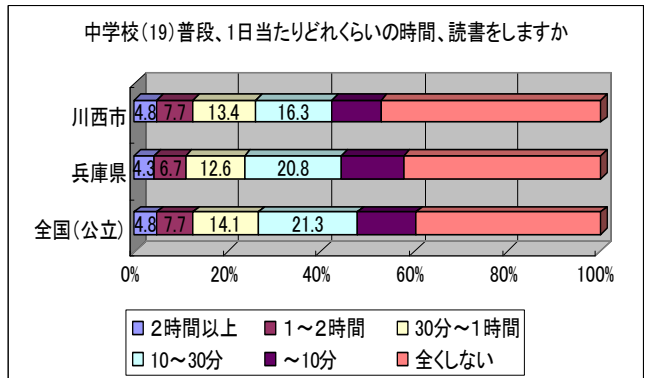
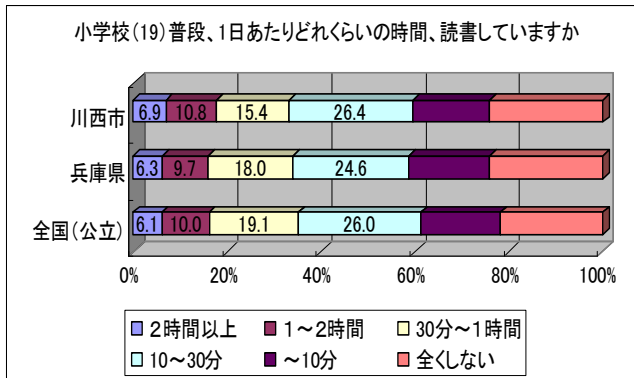
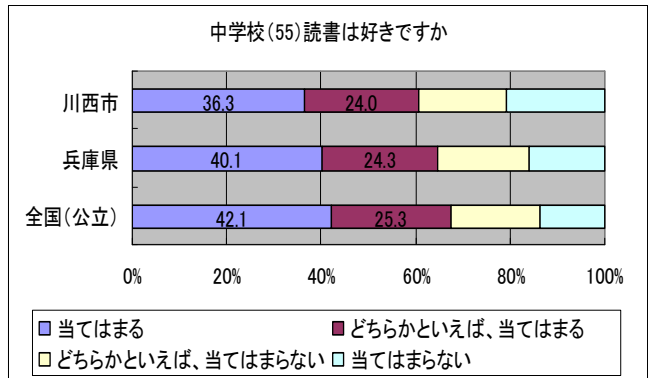
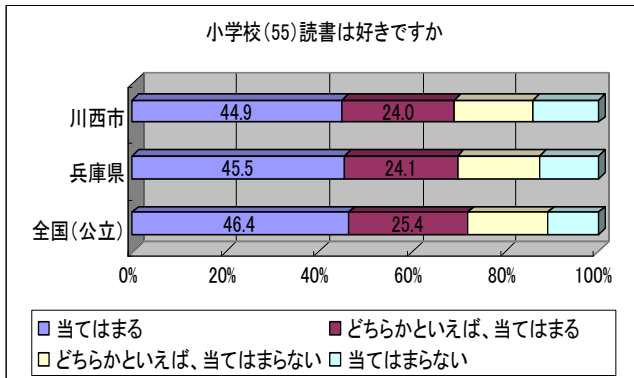
他にも、以下のような児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られます。

- \* 普段（月～金曜日）及び休日（土・日曜日）、1日あたりの家庭での学習時間が長い。
- \* 家でテストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強している。



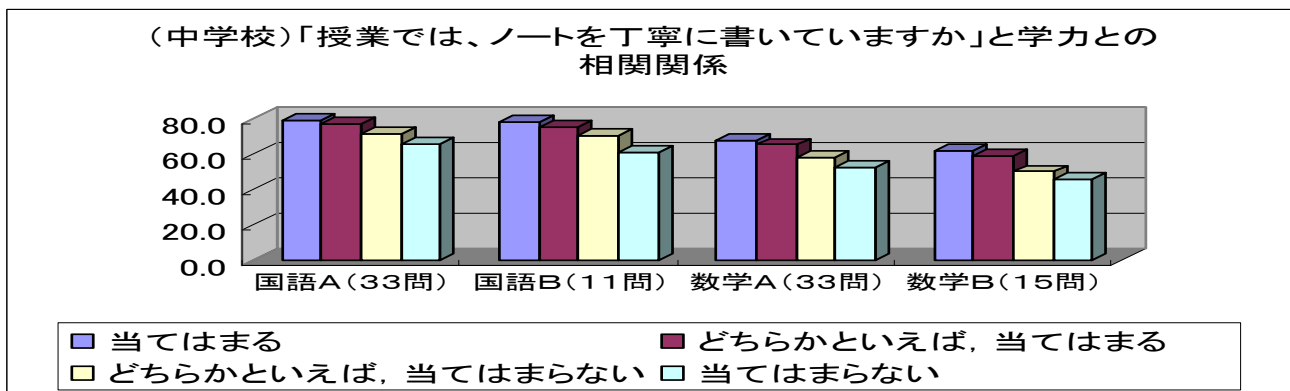
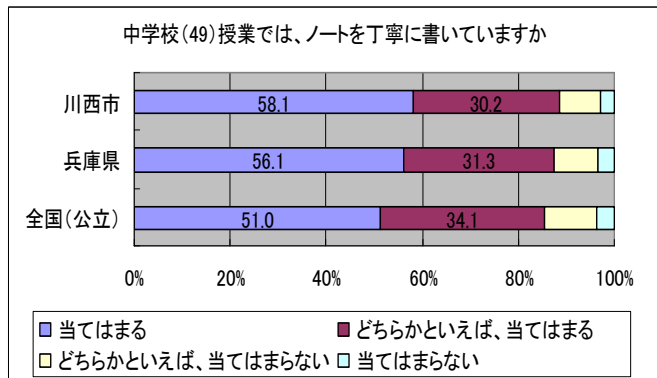
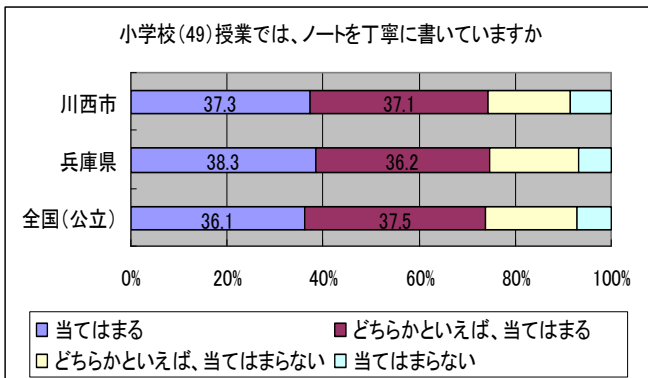
### 3 読書習慣と学力

読書が好き、1日あたり10分以上読書している児童生徒、テレビやビデオ・DVDを観る時間が短い児童生徒は、正答率が高い傾向が見られます。



## 4 学習に対する関心・意欲・態度と学力

国語の授業で考えの理由をわかるように気をつけて書いたり、算数・数学の授業で問題の解き方がわからないとき、あきらめずにいろいろな方法を考えたりしている児童生徒は、正答率が高い傾向が見られます。

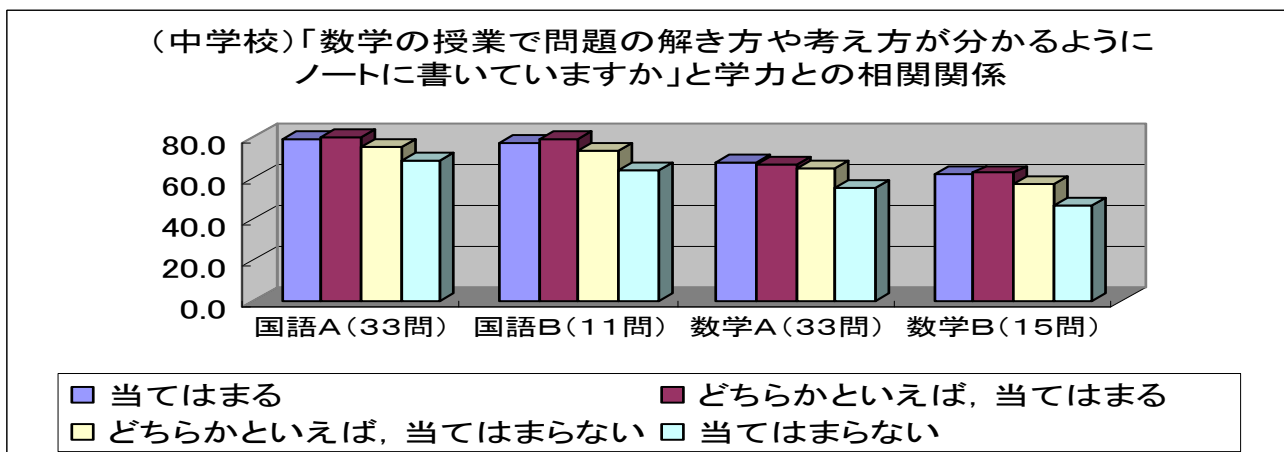
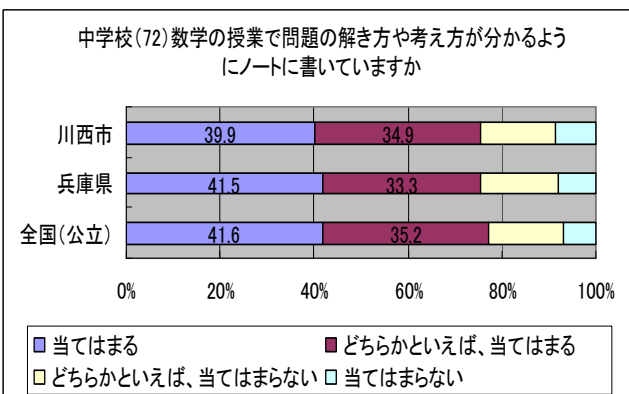
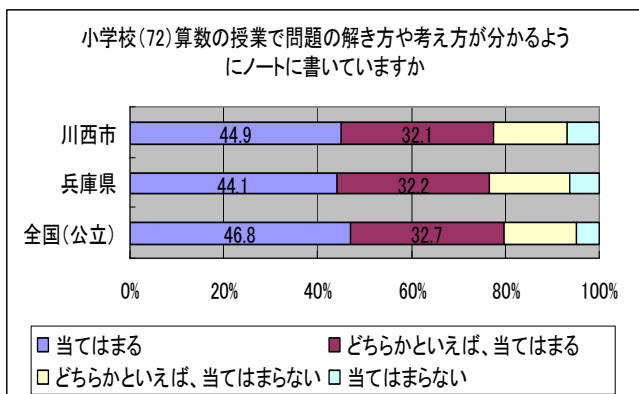


他にも、以下のような児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られます。

- \* 国語の授業の内容がよく分かると思う。国語の勉強は好き、大切だと思う。将来、社会に出たとき役に立つと思う。
- \* 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている。意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組立てを工夫している。
- \* 算数・数学の授業の内容がよく分かると思う。算数・数学の勉強は好き、大切だと思う。社会に出たとき役に立つと思う。
- \* 算数・数学の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思う。

## 5 学び方と学力

算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている児童生徒は、正答率が高い傾向が見られます。

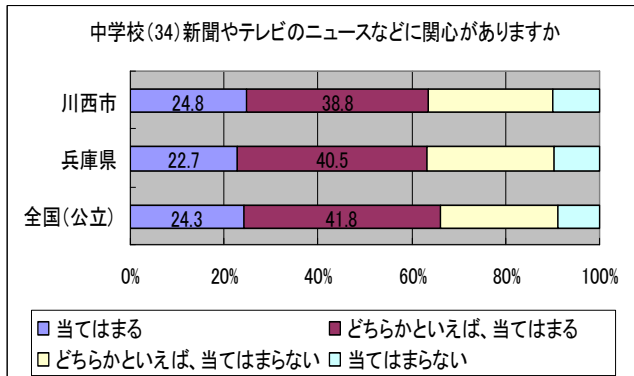
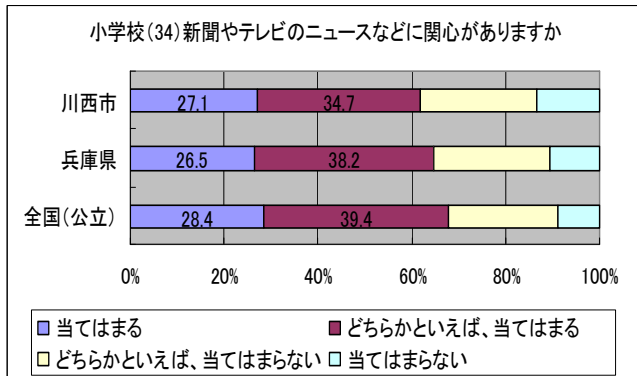
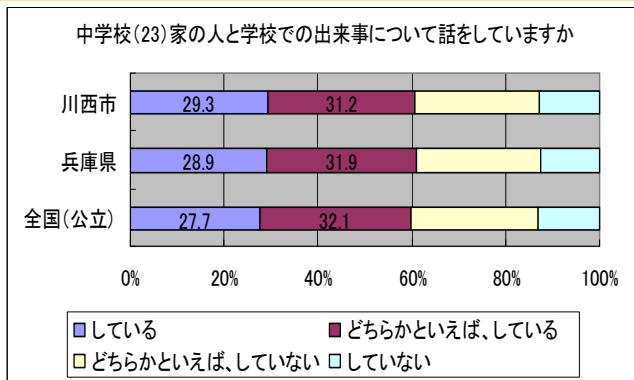
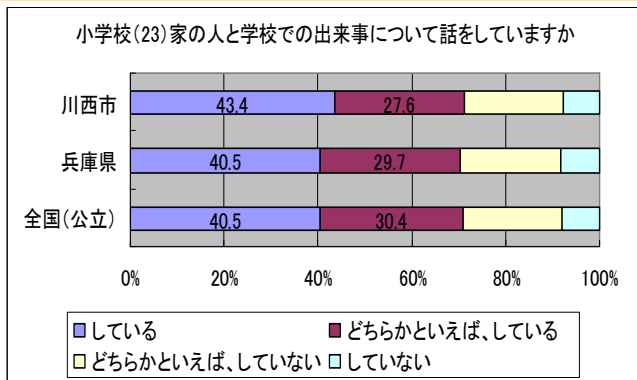


他にも、以下のような児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られます。

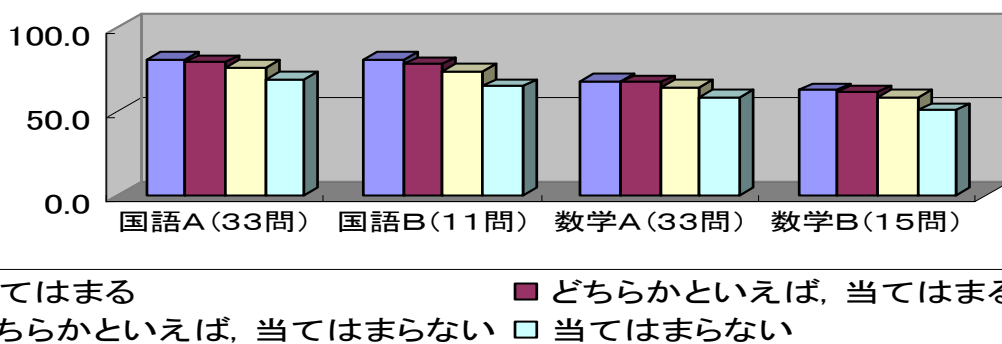
- \* 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいる。
- \* 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている。
- \* 算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える。
- \* 言葉や式を使って、わけや求め方を書く問題について、最後まで解答を書こうと努力する。

## 6 その他と学力

家の人と学校での出来事について話をしたり、新聞やテレビのニュースなどに関心持ったりしている児童生徒は、正答率が高い傾向が見られます。



(中学校)「新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか」と学力との相関関係

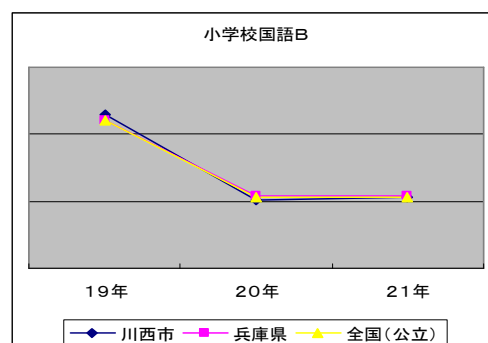


他にも、以下のような児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られます。

- \* 学校のきまりを守っている。
- \* 友だちとの約束を守っている。
- \* 近所の人とあいさつをしている。

## 学力調査結果の過去3年間の比較

このグラフは、小学校国語Bの19年度より21年度（本年度）までの3年間の経年比較を示したものです。過去3回いずれも、平均正答率は、全国平均と同程度となっています。その他の教科（小学校・中学校、国語、算数・数学のA問題（知識）・B問題（活用））についても、概ね同様の傾向を示しています。調査問題も参加する児童生徒も異なりますので、平均正答率による単純な比較はできませんが、その結果から、川西の子どもたちは、身につけておかなければならない基礎的な知識・技能については定着しており、その知識・技能を様々な場面で活用する力などについては全国平均と同様に、一部課題があるものの、良好な結果であると認識しています。



## 学習状況調査から明らかになったこと

「基本的な生活習慣・学習習慣の定着が、学力と相関関係がある」ということは、過去3年間の調査結果から明らかになっています。

**「基本的な生活習慣」ができれば、「基本的な学習習慣」ができます。**  
**「基本的な学習習慣」ができれば、「基本的な学力」は身につきます。**

これまでも、この「基本的な生活習慣の定着」「家庭学習の習慣化」について、保護者のみなさまには、ご理解ご協力をいただいているところですが、そのことが一定のよい結果につながってきていると受け止めています。今後も引き続き、ご家庭におかれまして、支えていただきたいと願っております。

これまでの調査結果の分析から明らかになった成果や課題、傾向について、よいところは伸ばし、思わしくないところは見直しを図り、よりよい方策を模索していくことが、今私たちに問われているのだと受け止めています。

子どもたちを健やかに育む、有意義な時間や場とは、さまざまな「ひと・もの・こと」との出会いです。そのためには、学校・家庭・地域・行政がそれぞれの担う役割を果たすとともに、それぞれが機能的に連携していくことが求められます。

明日の川西を担う子どもたちを健やかに育ていけるよう、取り組んでまいります。ご理解・ご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

平成21年12月発行